

環境

水の国くまもとを目指して

シリーズ・環境講座

〈随時掲載〉

「環境保全とエコライフ」

「水の恩恵」。意識していますか？

後世に残そう！ 熊本の名水と水資源

熊本地域はこれまで、全国にも類を見ない清れつて豊かな地下水に恵まれ、地下水をさまざまな用途に利用し発展してきました。質的に優れ、量的に安定性の高い地下水は、今後熊本ならではの魅力と活力にあふれた地域として発展していくための戦略資源といわれています。

熊本には8つの名水百選 全国で最も多く選定

熊本県は、水道資源の約80%を地下水に依存しています。平成20年6月に環境省の「平成の名水百選」に4カ所が選定され、昭和60年に選定された名水百選を加えると、一つの県としては最も多い8カ所の名水が選定されるなど、豊かで美しい水資源の宝庫といえます。

特に、県人口の半数以上を占め約100万人を擁する熊本地域(熊本市、菊池市、合志市、宇土市、大津町、菊陽町、西原村、御船町、嘉島町、益城町、甲佐町)は、生活用水のほぼ100%を地下水で賄っている全国でも稀な地域です。農業や工業などの産業用水にも多くの地下水を利用して、この豊富な地下水が熊本地域の魅力の一つとして、多くの企業が進出しています。

また、水質の良さも特長です。過度の炭酸とミネ

ラル分を含み飲み水として適しており、私たちは普段の生活の中で天然のミネラルウォーターを利用している恵まれた環境にあります。

では、なぜ、熊本地域の地下水が豊富なのか、それには3つの要因が挙げられます。

(1) 大きな地下水盆地の存在

阿蘇外輪山西側の山麓台地から熊本平野の低地部にかけての一带は、水を透しにくい基盤岩の形状により、約600km²にもおよぶ大きな地下水盆地が形成されています。

(2) 地下水盆地に地下水を浸透・貯留しやすい地層の存在

①阿蘇カルデラ形成時の阿蘇大噴火による溶結凝灰岩や軽石凝灰岩等の火砕流堆積物が中九州を広く覆い、その亀裂やすき間に大量の地下水が貯留されています。

②熊本市東部の江津湖や嘉島町の浮島等の湧水地の地下には、「砥川(とかわ)溶岩」と呼ばれる亀裂や気泡の多い帯水層が分布しています。

(3) 豊富な降水量

熊本地域およびその周辺の降水量は、全国平均降水量、約1,720mm/年(平年値)より多くなっています。

かん養域が都市化や開発等で減少傾向 節水やかん養域拡大などで保全を

しかし、近年、水源域等の農地や森林等のかん養域が都市化や開発等によって減少し、地下水位の低下傾向や湧水量が少なくなるなどのほか、一部では、有機塩酸化合物や硝酸性窒素による汚染が明らかになるなど、地下水質の悪化も見られるようになってきました。

いままでもなく地下水は地域共有の財産であり、

●地下水位の低下の主な原因と対策

原因	対策
・都市化によるかん養域の減少	→ かん養域の拡大を図る
・白川中流域での農地(水田)の減少	→ 農地(水田)の確保・維持及び水張りなどの実施
・地下水採取量の増加	→ 徹底して節水活動の推進を図る

将来に守り伝えていかなければならない資源です。この地域固有の資源・地下水を後世に継承していくために、地下水のかん養や水質の保全とともに、水の循環利用や再利用など地下水の適性利用、あるいは節水などに県民一人ひとり、地域が一体となって取り組む必要が迫られています。

【参考】熊本県の名水百選(名称と所在地)

1. 菊池水源(菊池市)
2. 白川水源(南阿蘇村)
3. 轟水源(宇土市)
4. 池山水源(産山村)
5. 水前寺江津湖湧水群(熊本市)
6. 金峰山湧水群(熊本市および玉名市)
7. 六嘉湧水群・浮島(嘉島町)
8. 南阿蘇村湧水群(南阿蘇村)

●熊本の地下水の流れ



●家庭でできる節水方法



(取材協力・熊本県 熊本市)

（株）肥後銀行と公益財団法人肥後の水とみどりの愛護基金の環境保全への取り組み

280団体・13個人を顕彰



「ふるさとの貴重な財産ともいうべき地下水を枯渇と汚染から守ろう」という長野吉彰元理事長(現名誉顧問、当時肥後銀行頭取)の提唱から、昭和62年に「肥後の水資源愛護賞」(現在の肥後の水とみどりの愛護賞)が創設されました。この賞は水資源保全活動に取り組んで

おられる団体、個人を対象に、創設以来延べ280団体・13個人の皆さんを表彰しています。この活動は、平成4年設立の(財)肥後の水資源愛護基金に引き継がれ、財団では顕彰活動のほかにシンポジウムの開催、節水器具展、植樹、棚田での水田湛水事業等々、幅広い活動を行っています。また、環境問題が一段と緑化推進に注力すべき段階を迎えたので、平成20年9月に名称を「肥後の水とみどりの愛護基金」へ変更、平成22年11月からは公益財団法人として新たにスタートし、新理事長に甲斐隆博(肥後銀行頭取)が就任しました。

植樹総本数は約10万本に

平成13年から水源かん養林育成のため、阿蘇地区を中心に植樹活動を行っています。平成18年2月には環境活動をさらに発展させ

るため阿蘇市小倉地区の阿蘇外輪山のふもとに森林約52haを購入し、「阿蘇大観の森」と命名、本年4月には肥後銀行グループの役員や家族、地元関係者など約900人が参加し、苗木1万2千本を植えつけました。これまで企業・団体のご協力もあって植樹総本数は約10万本となりました。



棚田での農業・水田湛水事業もスタート

さらに新たな活動として、地下水保全及び耕作放棄地解消を目的に、本年2月に阿蘇市と「農業・水田湛水事業に関する協定」を締結し、阿蘇市山田地区の耕作放棄地1.4haを含む3.5haの棚田で水田湛水事業を開始しました。本年5月に田植え、10月には稲刈りを行うなど、今後も棚田での地下水保全活動に取り組んでまいります。



ふるさと熊本の水とみどりの愛護に取り組んで25年

「くまもとの質・量ともに日本一の地下水を子や孫・曾孫に残そう」というご提案に、
あたたかくご賛同、ご支援いただきました皆様に、
ひまご
ここから感謝申し上げます。



「肥後の水とみどりの愛護賞」
顕彰事業



シンポジウム・セミナー等の
開催・支援



広報普及活動



植樹・清掃等の実践活動

肥後銀行 肥後の水とみどりの愛護基金

〒860-0817 熊本市練兵町1番地